

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス どりーむランド		令和 7 年 12 月 31 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		デイルーム内からの導線は全てバリアフリーとなっている。	デイルームからトイレに向けて身体介助が必要な利用者様の為に介助バー設置の工夫が必要である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		デイルーム内、導線上の前面にクッションマット設置、活動で広く使用できる机を新たに設置している。活動で使用する備品は見えてわかる位置に整理している。	活動のテーブルにあった高さの椅子、靴を履く時に使用する椅子を導入予定です。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別対応などで別室が必要な場合のスペースの確保はできている。	別室が1人分のスペースとなるので、複数名必要な場合の対策が必要である。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		ミーティングにて職員間で情報共有と意見交換を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者様からの評価についてミーティングで共有を行い、支援へ反映させている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティングにて職員間で情報共有と意見交換を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価は現在検討中である。	将来的に取り入れる可能性がある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		資格取得などの研修への参加や補助金制度を積極的に行っている。また、社会人、介護職としての人材育成の為に外部研修を取り入れている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムを作成し、事業所内に掲示している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントを行い計画を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ミーティングにて職員全員で情報共有し作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		ミーティングにて職員全員で情報共有し作成している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		各方面からの情報を収集し、適切な支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。			活動プログラムをチームで実行している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		新しい提案も含めて活動プログラムを職員全員で決めている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		状況に応じて組み合わせを行い、支援に反映させている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		送りやミーティングにて情報共有と予定を決めてチームでの支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		振り返りと気づきの報告を行っている。	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録を作成し、支援に反映できている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリング、状況に応じて見直しを定期的に行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○		自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、余暇の提供での支援を行っている。地域交流の機会の提供が課題である。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動への取り組みや声掛けによって動機づけができるような働きかけを意識している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者及び児童発達支援管理責任者、担当スタッフが参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校や各関係機関との連携を行い、広い視野で背景を意識した支援ができるよう整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校、保護者様からの下校時間を確認し予定を立てている。変更の場合も保護者様より事前にご連絡をいただき調整を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		児童発達支援から放課後等デイサービスへの移行時は事前に情報を共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		卒業後に利用する事業所と卒業前より会議にて情報共有を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	研修を受ける機会を設けていない。	今後連携し研修を受講する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。		○	他事業所との交流や活動を行っていない。	感染症の時期でなければ検討して取り入れていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	参加できていない。	今後の参加を検討中。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者様と情報共有と共有認識で支援へ反映させている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		相談員やソーシャルワーカーとの連携し、保護者様支援を行っている。研修機会は課題である。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や計画書作成の際に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		モニタリングにて保護者様やご本人様の思いを確認する機会を作っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		保護者様とご本人様の意向を取り入れて作成し、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必要に応じて助言を行い、定期的に面談を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○	兄弟の支援はしているが、交流の機会は設けていない。	定期的な保護者会を開催できるよう検討中。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		問題が起きた場合は連絡、報告、対応が迅速にとれるよう体制を整えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		行事予定表の配布、SNSにて活動の様子を公開発信している。	HPをリニューアル中にて完成次第、活用していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵がついている書庫に書類を保管し、共有ファイルを含めてPCにロックをかけアクセス制限を行っている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		利用者様、保護者様へご相談する際にも言葉や伝達方法にも配慮している。時間帯や内容にも配慮を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域住民との交流はできていない。	感染症の時期でなければ検討して取り入れていく。

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事業所内にて掲示、周知している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的な訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		モニタリングにて既往歴、現在の通院、服薬状況を確認している。	服薬の変更や体調の変化、発作に留意する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		定期的なモニタリングでアレルギーと対応方法の確認を行っている。	クッキングの時など表示を確認し留意する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ミーティングにて事例の共有を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会にて研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			